

# 原発連事務局短信 第 1173 号 2022 年 4 月 5 日

原発問題全道連絡会 事務局発行 Tel:011-777-1060、e-mail:genpaturen@gmail.com

## 泊原発の審査～北電の説明は来年（2023年）9月頃までかかる—3月31日の審査会合資料・論点の作業スケジュールに明記

北電の泊3号炉の原子力規制委員会による審査会合（3月31日）に、北電が提出した資料2—3「残されている審査上の論点に対する作業スケジュール」表には、基準地震動の策定や基準津波の策定、火山災害評価などの作業スケジュールとともに、新設防潮堤の形状・構造評価を踏まえた断面の評価や原発のプラント側の審査の主要な説明項目—例えば、耐震設計方針の地盤の液化評価や対津波評価方針などについては、資料作成や規制委員会への説明期間が、2023年7、8、9月頃になるとしています。こうした作業には多額の対策費がかかることは明らかで、泊原発もますますコスト高となり、電気料金にはねかえることも心配されます。

### 北電HP「再稼働に向けた取り組み状況をお知らせします」(2022年3月)にも審査対応状況と今後の課題を列挙～審査終了の見通し示せず

北電は、今年3月11日の審査会合の到達などを踏まえ、会社のHPに「再稼働に向けた取り組み状況をお知らせします」をアップしています。ここには、例えば、地震動評価②のなかで、「2022年1月14日の審査会合で、…現状のデータでは新たなモデルを設定することの妥当性が示されていないなどのコメントをいただいた。引き続き検討し、今後の審査会合などで説明していく」と明記しています。津波評価についても、2021年12月24日の審査会合で、「想定波源の位置を西側に移動させた場合の津波の高さへの影響について検討することなどのコメントをいただいた。引き続き検討し、今後説明していく」とあります。

さらに、プラント施設への地震・津波の影響評価についても、2022年3月3日の審査会合で、「…一部残置する既設防潮堤などが地震や津波によって損壊した場合の新設防潮堤への影響について説明することなどのコメントをいただいた。引き続き検討し、今後の審査会合などで説明していく」と書いています。しかも「既設防潮堤は、2022年3月から撤去工事を実施している」「新設防潮堤設置までの期間における津波への安全対策として、建屋の水密扉で浸水を防ぐほか、海拔31mに保管している使用済み燃料の多様な冷却手段の確保などにより、安全確保に万全を尽くしている」などとしています。

泊原発は再稼働に向けて、まだまだ多くの課題が審査対象として残っており、「適合」時期はまったく見通せない状況です。再稼働せず廃炉にさせよう—この世論と運動を広げましょう。

### 「泊原発運転停止 10年超確実に 再稼働審査の説明終了は来年9月」～「朝日デジタル」も報道

「朝日新聞デジタル」（4月1日）は、「泊原発の再稼働の審査会合が3月31日に開かれ、今後の審査スケジュールが話し合われ、北電が審査に必要な説明を終える時期は来年9月と、当初見通しより1年遅れることになった」「審査が遅れている一因が、北電の不手際だ」「この日は審査の遅れに気をかける規制委側の提案で、異例の意見交換の場となった」などと報じています。

## 4月のイレブンアクションにご参加を！

### 4・11 原発ゼロ、核ゴミNO!NO WAR!昼休み宣伝署名行動

◇日時 2022年4月11日（月）12時15分～同45分

◇場所 JR札幌駅西口（紀伊国屋書店札幌本店前 北5西5）

◇行動 リレートーク含む宣伝・署名行動（原発ゼロ、核ゴミNO!ロシアはウクライナ侵略をやめ、直ちに撤退せよ!ロシアは原発攻撃・占拠やめよ!などをアピール）